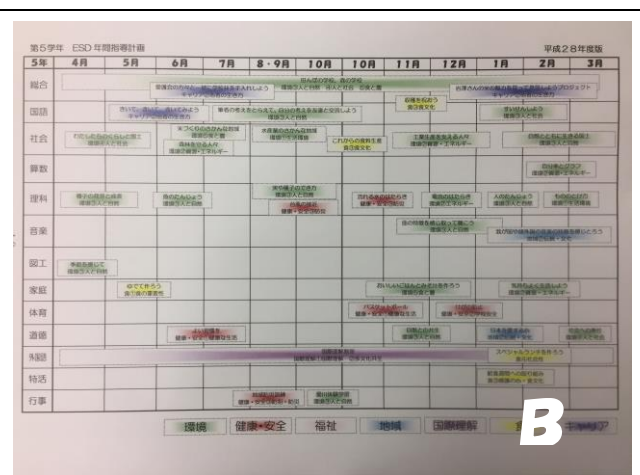


成果報告書 概要

2014年度助成 (助成期間：2015年1月1日～2016年12月31日)			
タイトル	持続可能な社会づくりを担う児童を育成するために、環境やキャリアなどの教育課題をクロスカリキュラムにより整理し、全ての教科等における授業実践を行う。		
所属機関	神奈川県横浜市立三保小学校	役職 代表者 連絡先	学校長 和泉 良司 045-931-1037

対象	学年と単元：	課題
○ 小学生	第1学年 あきとなかよし(生活科)	○ 教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発
	第2学年 竹とあそぼう(生活科)	
中学生	第3学年 ものの重さを調べよう(理科)	○ 子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発
	第4学年 もののあたたまり方(理科)	
教員	第5学年 田んぼの学校(総合的な学習の時間)	○ ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成
	第6学年 我がまち ふるさと 三保(総合的な学習の時間)	
その他	個別級 カブトムシランド(生活単元)等	○ その他



実践の目的：	持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観をもった児童の育成を目指す。
実践の内容：	<p>環境、食、健康・安全、福祉、国際理解、キャリア、地域に関する教育課題をESDの内容ととらえ、『横浜の時間』のみならず、すべての教科等との関連をクロスカリキュラムにより整理する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ESDで目指す力が身に付いているのかどうか、評価に関する研究を進める。 地域の自然や人との関わりを重視した研究を推進していく。 豊かな地域の材を生かした教材開発を行う。 <p>画像A→4年生理科「もののあたたまり方」科学的な考え方は他教科でも重要 画像B→ESD年間指導計画 クロスカリキュラムにより教育課題を整理</p>
実践の成果：	各学年での実践を踏まえ、ESDの年間計画や生活科のカリキュラム、総合的な学習の時間の単元構想図等を見直し、研究紀要にまとめた。また、実践の成果を公開授業研究会やこどもエコフォーラム、ESDコンソーシアム推進校交流会等で発表した。(補足資料 研究紀要「ESDの研究と実践Ⅱ」参照)
成果として特に強調できる点：	<p>○各教科等において「持続可能な社会づくり」に関連する構成概念と、ESDで重視する能力・態度を明らかにした。</p> <p>○継続して150以上の授業実践例を蓄積できた。</p> <p>○ESD年間指導計画を見直すことにより、カリキュラムマネジメントが進んだ。</p>

成果報告書

2014年度助成	所属機関	神奈川県横浜市立三保小学校
タイトル	持続可能な社会づくりを担う児童を育成するために、環境やキャリアなどの教育課題をクロスカリキュラムにより整理し、全ての教科等における授業実践を行う。	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

三保小学校の周りには新治市民の森、念珠坂公園、田んぼなど、季節ごとに色を変えるたくさんの自然がある。また、森の間を抜けるように、鶴見川の支流である梅田川が流れ、そこにはホトケドジョウやハグロトンボ、ゲンジボタルなど、横浜の他の地域ではめったに見ることのできない生き物たちが生息している。エネルギーの問題をはじめ、環境保全への取り組みがますます喫緊な課題となっている昨今、この恵まれた自然を学習材として活用しない手はない。地域にある豊かな自然と積極的に関わり、諸感覚を十分に使った学習活動を展開することで、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観をもった児童の育成が期待できる。そこで本校では、「持続可能な社会づくりを目指した児童の育成」をテーマにE S D（持続可能な開発のための教育）の研究と実践に取り組む。

2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

機材・材料の購入については、アクティブラーニングのためのコミュニケーションボード（ホワイトボード）や、表現活動や写真展に向けての環境整備の為にプリンターを購入した。また、理科の実験器具等も購入し、学習環境の充実を図った。

協力機関等については、新治市民の森愛護会や一本橋メダカ広場愛護会、地域の農家の方や昔遊び名人などをお願いして、学習活動に協力していただいた。また、横浜市E S Dコンソーシアム推進校として公開授業研究会の準備、こどもエコフォーラムへの参加、E S Dコンソーシアム推進校交流会への参加、中山地区センターでの写真展開催（我がまち ふるさと 三保～未来に残したい三保の自然～）の為に準備を行った。

3. 実践の内容

例1) 1年生の取り組み ～身近な自然・身近な人との交流～ 【I多様性】【④伝達】

身近な動植物の飼育・栽培をはじめ、公園たんけん等の活動を通して生き物や自然と体験的に触れ合う学習を展開している。「あきとなかよし」の学習では集めた木の实や秋のもので簡単なおもちゃを作ったり、友達や家の人を招待して遊んだりした。冬には、地域の“昔遊び名人”の方々に遊び方を教えてもらいながら一緒に遊んだり、近隣の幼稚園児を招待して交流したりした。子どもたちは、身近な人と触れ合うことの楽しさを知り、地域の人や様々な友達との関わりをたくさんもつことで自分の世界を広げることができた。子どもたちの自立をうながし、生活がさらに豊かになるきっかけになればと考える。



公園たんけん



おもちゃ作り（秋の自然物）



地域の昔遊び名人と一緒に

例2) 6年生の取り組み ～我がまち ふるさと 三保～ 【V連携性】【⑦参加】

地域の自然の写真を撮る活動を通して、「この場所がずっとこれからも残っていてほしい」という願いから「残すべきだ」という使命感に変化していく。子ども達にとってこの場所が、自分たちのふるさとであることを感じてくれることが持続可能なまちづくりにつながると考えている。撮影した写真は「緑区を撮る」という写真展に出展したり、地区センターで展覧会を開いたりした。子ども達は一人でも多くの方に見ていただけるよう、チラシを作り、駅前での宣伝活動も行った。写真展のアンケート結果から、自分たちの願いに近づいたと感ずることができた。



飛んでけ綿

三保の自然の写真。写真に思いを寄せ、タイトルにも工夫を凝らす。



中山地区センターでの写真展開催。開催に向けて駅前で作成のチラシ配り。



様々な角度からものを見る。そして、瞬間を逃さない。

授業後の研究協議では、形式を工夫し、職員全員で考えを深め、次へと生かしていく。



4. 実践の成果と成果の測定方法

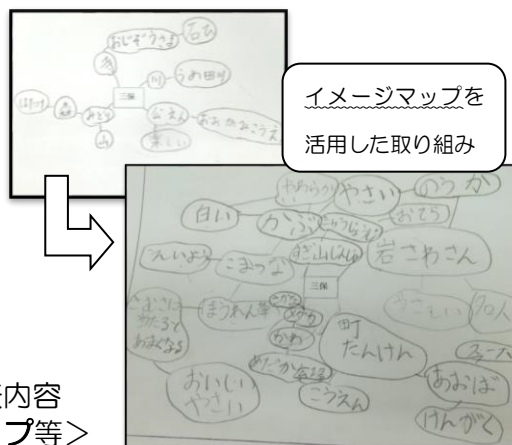
2年生の成果 ～竹とあそぼう～ 【Ⅲ有限性】【③多面】

地域に点在する竹林に着目し、「竹」を扱った取り組みを行っている。新治市民の森には67ヘクタールの横浜の原風景が残り、大きな谷戸や複雑に入り組んだ尾根や谷、コナラやくヌギなどの深い森が広がっている。この森を守る「新治市民の森愛護会」の方々と一緒に活動を行った。遠足では、「竹の切り出し」を行い、「竹ぼっくり・竹でっぼう」に仕上げ、昔遊びの体験を行った。「竹」という一つの材から広がる材への愛着、まちの自然を守る地域の方々とのおいあひから、自分たちのまちを思うふるさと意識をもつことができた。<成果の測定方法 → ESDアンケート、児童の学ぶ姿、遊ぶ姿等>

3年生の成果 ～まちたんけんと大豆のひみつ発見～ 【Ⅰ多様性】【③多面】

社会科「まちたんけん」での地域学習を通して、三保のよさに気づく学習を行った。梅田川やめだか広場、中山駅周辺など地域のようすを観察し、まちの特色に気づくことができた。総合では、「大豆はかせになろう」というテーマのもと、大豆を育てる活動から大豆栽培の難しさを知った。また、国語の「すがたをかえる大豆」の学習を通して、大豆がさまざまな食品にすがたを変えることを知り、さらに大豆についていろいろなことを知りたいと課題をもち、本やインターネットを活用しながらグループで調べて発表した。

<成果の測定方法 → ESDアンケート、報告会での発表内容ワークシート、イメージマップ等>



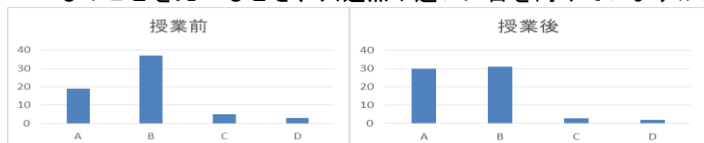
4年生の成果 ～バリアフリーとユニバーサルデザイン～ 【Ⅳ公平性】【③多面】

「みんなに優しいまちづくり」とはどのようなまちなのかを調べる学習に取り組んだ。車いすやアイマスク等の福祉体験や、公共施設として「新治里山交流センター」の見学を通して、一人ひとりが優しいまちへの考えをもつことができた。すべての人を個人として尊重し、思いやりの心をもって助け合う態度を育み、共に生きる人間の心の育成ができた。<成果の測定方法 → ESDアンケート、ワークシート、イメージマップ等>

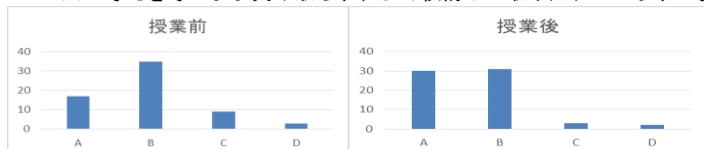
5年生の成果 ～田んぼの学校～ 【Ⅲ有限性】【③多面】

5年生は、毎年、三保・新治地区で農業を営む1さんと一緒に、田植えや稲刈りなどの米作りを体験した。地元でとれる米の魅力や米作りにおける様々な工夫、自然の一部である田んぼの価値などを探り、発信する活動を行ってきた。稲作体験や「探り、発信」する活動を通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことができた。<成果の測定方法 → ESDアンケート、報告会での発表内容、ワークシート、イメージマップ等>

1 ものごとを比べると、共通点や違いに目を向けていますか。



2 人の考えをそのまま受け取らず、よく検討して取り入れていますか。



ESD アンケートの取り組み

身に付けさせたい ESD の構成概念及び能力・態度に関するアンケートを実施し、児童の変容を見取る取り組みを行った。児童が自分の意識に近いものを選択する方法とし、学習前と学習後の2回実施。

個別支援学級の成果 ～カブトムシランド～ 【Ⅳ責任性】【⑥関連】

カブトムシを育てる中で、その変化する様子に興味津々。土を入れ替えたり、幼虫の糞を取り除いたりする作業にも進んで参加した。特に、ペットボトルに1匹ずつ幼虫を移してからは、「自分のカブトムシだ」という意識が芽生え大切にする様子が見られた。成虫になったカブトムシは、ボール裏に作ったカブトムシランドに放した。いつか「カブトムシが育つ三保小」になればいいなという思いをもつようになった。<成果の測定方法 → ESDアンケート、飼育する姿等>

5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

ESD年間指導計画を作成し、本校としてのカリキュラムマネジメントを見直すことができた。年間指導計画を見直すことで、各教科等において形成すべき基本的な概念を明らかにすることができた。また、評価に関する研究によって、各教科等で共通に、どのような資質や能力を育てるかの分析を進めることができた。

成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性

ESDの研究から5年が経過するが、更に職員の意識を高め、授業実践を積み重ねることで実践例を増やし、評価についての研究を深めていきたい。また、次年度以降は、各教科等の授業にアクティブラーニングを積極的に取り入れていく。大学、市内外の他校や外部機関との連携を密にすることで、共同研究や情報交換を行っていきたいと考えている。

6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載、放送された場合は、ご記載ください

- こどもエコフォーラムに参加し、ESDについての取組みについて報告。
（平成26年度、平成27年度、平成28年度）
- 横浜市に向けた公開授業研究会の実施。（平成26年度、平成27年度、平成28年度）
- 横浜市及び、全国のユネスコスクールに向けた公開授業研究会の実施。（平成28年度）
- 横浜市コンソーシアム推進校交流会に参加し、ESDについての取組みについて報告。
（平成28年度）
- 研究紀要「ESDの研究と実践Ⅱ」（244ページ）を市内全小学校に配布予定。
（平成28年度）

7. 所感

現代は様々な分野で「持続可能性」が求められ、教育も例外ではない。そこで、ESD「持続可能な開発のための教育」が重視されている。しかし、ESDに取り組んでいる学校では総合的な学習の時間を中心に学習活動が展開されていることが多く、授業実践では「育てようとする資質や能力」の分析はされるが、多様性・有限性などの持続可能な社会づくりの「構成概念」が曖昧にされがちである。また、各教科と異なり、総合的な学習では学級単位の取組みであったり、年度により学習内容が大きく変化したりするので、学校として継続的なカリキュラムとして開発しにくいという面が否めない。そこで、各教科等においてもESDの学習が取り組めることを授業実践を通して検証してきた。今後、他のESDに取り組んでいる学校とも連携し、持続可能性を視点とした取組みを継続したい。